

伊勢湾台風と名南三川

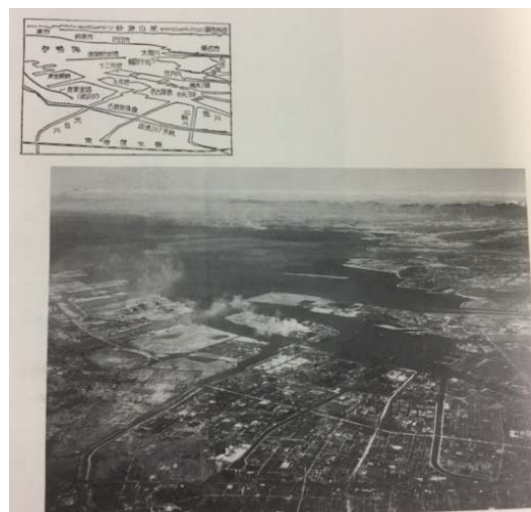
毎年この頃になると、伊勢湾台風の「あの日」のことを思い起こす。今年の今頃は、名古屋市南区で甚大な被害を受けた地域、山崎川や天白川沿い、道徳や柴田、白水などを歩いて、それをレポートに何本か書いた。

先日たまたま、名古屋都市センターで『伊勢湾台風 名南三川復興誌』を見つけた。愛知県名古屋土木出張所が 1964 年に刊行した肉厚の「報告書」だ。これまで見逃していた。ページをめくると、多くの航空写真などが掲載されており、じっくりと目を通した。

写真は順に、毎日新聞社提供の「浸水に覆われた名古屋南部一帯 昭和 34 年 10 月 3 日撮影」。伊勢湾台風襲来から 1 週間後、南区などで水が引かない状況がわかる。



次の写真は名古屋南部三川位置図。三川とは南から、天白川、大江川、山崎川である。位置図の緑は河川の流域、紫が伊勢湾台風時浸水区域、橙が 1 週間以上浸水区域。



浸水区域は南区から熱田区、瑞穂区まで広範囲に及んでいる。堀田通を北に鶴舞公園近くまで、東は弥富通の島田橋まで浸水している。南区の道徳から星崎・鳴尾あたり、堀川から東の東海道線西側の三角形をした地域は、台風後もなかなか水が引かない地域であることがわかる。道徳など地盤が低い地域だ。

その右の写真は、朝日新聞社提供「傷跡も癒え躍進する名古屋南部 昭和 39 年 3 月撮影」。伊勢湾台風から 4 年半後の航空写真。東京オリンピックの年だ。高度経済成長のなかで、名古屋南部の工業開発がすすみ、公害問題も深刻化してくる。

(2017 年 9 月 25 日)